

昭和五十六年二月招集

第一回館山市議會臨時會會議錄

館山市議會

目次

日時	二
場所	二
出席議員	二
欠席議員	二
出席説明員	二
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	二
追悼の言葉	二
黙禱	三
議長の報告	三
議案の配付	三
會議録署名議員の指名	三
会期の決定	四
議案第一号乃至議案第三号	四
提案理由の説明	四
委員会付託の省略(議案第一号)	五
採決	五
神田守隆君の質疑、当局の応答(議案第二号)	五
委員会付託の省略	六
採決	六
石井武敏君の質疑、当局の応答(議案第三号)	七
石井輝久君の質疑、当局の応答	九

藤田益治君の質疑、当局の応答(議案第三号)	一〇
伊賀多朗君の質疑、当局の応答	一一
安西益男君の質疑、当局の応答	一二
神田守隆君の質疑、当局の応答	一二
林 豊君の質疑、当局の応答	一四
委員会付託の省略	一五
採決	一五
三芳水道企業団議會議員補欠選挙	一五
閉會	一六
本日の會議に付した事件	一六

一、昭和五十六年二月十二日（木曜日）午前十時

二、館山市役所議場

一、出席議員二十五名

一 番 神 田 守 隆	二 番 石 井 謀
四 番 横 溝 功	五 番 福 原 勤
七 番 古 賀 礼 四 郎	八 番 石 井 昌 治
九 番 松 下 正 己	一 番 林 豊
一 二 番 栗 原 一 雄	一 三 番 近 藤 好 雄
一 四 番 渡 辺 昭 夫	一 五 番 伊 藤 幸 太 郎
一 六 番 押 元 稔	一 七 番 黒 川 平 治
一 八 番 流 山 源 次 郎	一 九 番 石 井 輝 久
二 〇 番 石 井 武 敏	二 一 番 吉 田 勇 治 郎
二 二 番 藤 田 益 治	二 三 番 菊 井 敏 博
二 五 番 五十嵐 昇	二 六 番 伊 賀 多 朗
二 七 番 石 井 正	二 八 番 安 澤 徳 順
二 九 番 安 西 益 男	

一、欠席議員二名

一、出席説明員

三 〇 番 山 口 康

市 長 半 澤 良 一	助 役 小 倉 澄 男
収入 役 太 田 博 雄	総 務 部 長 石 田 雄 一
教育 委 員 会 吉 田 政 弘	教 育 委 員 会 安 田 豊 作
委 員 長 鈴 木 正	委 員 長 蜂 谷 達 二
一、出席事務局職員	事務局 書記 長
事務局 長 高 尾 豊	事務局 補 佐 石 井 敏 夫

書 記 兵 藤 恭 一 書 記 鈴 木 哲
書 記 石 井 一 夫 書 記 嶋 田 範 夫

一、議事日程

昭和五十六年二月十二日午前十時開議

日程第一 会 議 録 署 名 議 員 の 指 名

日程第二 会 期 の 決 定

議案第一号 昭和五十五年度館山市一般会計補正予算

議案第二号 工事請負契約の締結について

議案第三号 昭和五十五年度館山市一般会計補正予算

議案第三号 昭和五十五年度館山市一般会計補正予算

（第五号）

日程第四 三 芳 水 道 企 業 団 議 会 議 員 補 欠 選 挙

開 会 午前十時十四分開会

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十五名、これより昭和五十六年第一回市議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

追 悼 の 言 葉

○議長（五十嵐 昇君） この際、御報告申し上げます。

本市議会議員綱島憲治君には一月二十三日午後十時三十分逝去されました。ここに謹んで哀悼の誠をささげ、御報告申し上げます。

このことについて流山源次郎君より発言を求められておりますので暫時これを許します。

(一八番議員流山源次郎君登壇)

〇一八番(流山源次郎君) たいいま議長から報告のありましたとおり、網島憲治議員には一月二十三日急逝されました。

ここに、同僚議員の御同意をいただき、議員一同を代表いたしまして謹んで追悼の辞をささげ、深く哀悼の意を表します。

君は、昭和二十二年富崎村役場を振り出しに三十余年の長きにわたり市職員として職務に精励し、この間富崎出張所長、保健衛生課長、保健課長及び庶務課長等を歴任され、市政振興に寄与されました。

願ひますに、君は資性潤達にして人情味に富み、いかなる問題も円満裏に解決され、同僚職員から敬慕されてまいったのであります。昭和五十三年後進のため市職員を辞し、昭和五十四年四月執行の市議会議員選挙に立候補、地域住民の衆望を担いみごと初当選の栄に浴されたのであります。

自来、議会人としての職責に徹し、文教民生委員会委員、建設経済委員会副委員長、三芳水道企業団議会議員、開発公社理事として市政振興に寄与されましたが、任期半ばにして永眠されましたことは真に痛恨のきわみであります。

御承知のとおり、わが国の経済は高度成長から安定成長への移行の中で、地方財政は苦しい運営を余儀なくされており、とみに近年は高齢化社会への移行、福祉や文化に対するニーズの高まりなどを背景とし、複雑多様化に加え増大する行政需要に適切に対応することが求められております。

このようなき、君を失いましたことは本市にとりまして大きな損失であり、込み上げる哀惜の情を禁じ得ません。

常日頃元気に登壇された姿も今はなく、君の議席である三番は空席となってしまったのであります。

いま、君の議席に花束をささげ、その功績をたたえ、風格をしのび、心から御冥福をお祈りいたしまして追悼の言葉といたします。

黙

禱

〇議長(五十嵐 昇君) この際、故網島憲治君の靈に謹んで黙禱をささげ、御冥福をお祈りしたいと思ひます。

御起立願ひます。黙禱始め。

(起立、黙禱)

〇議長(五十嵐 昇君) 黙禱を終わります。御着席願ひます。

議長の報告

〇議長(五十嵐 昇君) 本臨時会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手元に配付のとおり出席報告がございましたので御了承願ひます。

議案の配付

〇議長(五十嵐 昇君) たいいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。配付漏れはございませんか。配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ひます。

会議録署名議員の指名

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

一番議員神田守隆君、一七番議員黒川平治君、以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、会期の決定を行います。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということとあります。

お諮りいたします。会期を本日一日と定めますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって会期は本日一日と決定いたしました。

議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、議案第一号乃至議案第三号の各議案を一括して議題といたします。

提 案 理 由 の 説 明

○議長（五十嵐 昇君） これより各議案の提案理由の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 本日、ここに第一回市議会臨時会を急遽招集いたしましたところ、議員の皆様方には御多忙の中を御出席賜

り、まことにありがとうございます。

今回、御審議をお願いいたします案件は、一般議案二件及び補正予算一件であります。

まず、議案第一号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第四号）の専決処分の承認についてであります。去る一月二十五日に本県選出の参議院議員が死去したため、公職選挙法第百十三条第一項の規定により参議院千葉県選出議員補欠選挙が執行されることになり、二月二日県選挙管理委員会において来る三月八日に行うことが決定されました。この執行経費として全額県支出金を財源として見込み、六百五十六万五千円を追加する補正予算を昭和五十六年二月二日地方自治法第百七十九条第一項の規定により専決処分いたしましたので、議会に報告し、この承認を求めようとするものであります。

次に、議案第二号工事請負契約の締結についてであります。船形小学校防音改築工事（第一期躯体）に係る指名競争入札において落札に至りませんでしたので、最低の価格をもって入札をした者から見積書を徴した結果、二億二百万円をもって荒井建設株式会社と随意契約により工事請負契約の締結をしようとするものであります。

工事内容といたしましては、現在の運動場に三期に分けて鉄筋コンクリート造り三階建て延べ面積四千八十九平方メートルの校舍を改築するもので、今回はその第一期分として二千八百七十二平方メートルの躯体工事を実施しようとするものであります。工期は昭和五十六年七月三十一日までとするものであります。

次に、議案第三号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第

五号)についてであります。歳入歳出それぞれ二百二十九万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ八十九億三千七百三十七万七千円とするものであります。

その内容としては、三月十五日に実施予定のロードレースは、当初リハーサル大会として計画しましたが、その後新聞社の後援が得られるに至り、参加者の範囲も拡大してまいりましたので、これを本大会に改め、南房総館山若潮マラソン大会として開催するための追加経費として二百二十九万八千円の追加補正をお願いするものであります。

また、繰越明許費の補正であります。本年度当初予算に計上いたしました船形小学校校防音改築第一期躯体工事につきましては、東京防衛施設局からの国庫補助金の交付決定が本年一月二十六日と大幅に遅れたため、本年度中の工事の完成が困難となりましたので、歳入歳出予算に計上いたしました工事請負費で一億三千五百十一万八千円、監理委託料で百十八万円を地方自治法第二百十三条第一項の規定により、昭和五十六年度に繰り越して使用するものであります。

以上、提案理由について御説明申し上げましたが、いずれの案件も急務を要するものでありますので、何とぞ慎重なる御審議を賜りますようお願い申し上げます。提案理由の説明を終わります。

○議長(五十嵐 昇君) 以上で提案理由の説明を終わります。

質 疑 応 答

○議長(五十嵐 昇君) これより各議案の審議を行います。

まず、議案第一号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算の専

決処分の承認について御質疑を願います。

御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長(五十嵐 昇君) お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。

採 決

○議長(五十嵐 昇君) これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって本案は承認することに決しました。

質 疑 応 答

○議長(五十嵐 昇君) 次に、議案第二号工事請負契約の締結について御質疑を願います。

○一番(神田守隆君) 工事請負契約の内容について随意契約ということになっているわけでありませうけれども、この入札の経過について少し質問してみたいと思うわけですが、入札の参加業者は何社で、そして業者の名前。そしてまた基準——どういう基準で

入札の指名をしたのか。そして入札の回数、何回行ったのか。それから各入札における最低入札者がそれぞれどなたであったのかということについてお聞きいたしたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 一番議員の御質問にお答えを申し上げます。

今回の船形小学校防音改築工事の入札に参加いたしました業者でございますけれども、市内五社、市外五社、計十社でございます。

参加いたしました業者を申し上げますと、市内におきましては、計工務店、石井工務店、富士土建、渡辺建設、荒井建設、以上五社でございます。市外につきましては、馬淵建設、古久根建設、大豊建設、青木建設、清水建設、以上五社でございます。

それから、指名の回数でございますが、三回実施いたしました。各入札におきます最低の入札者でございますけれども、いずれも荒井建設でございます。

以上でございます。

○一番（神田守隆君） 三回とも荒井建設ということで、いつも不思議に思っていますが、これまでもたびたび質問しているわけですが、けれども、いつも一番最低の価格というのが決まっているということ、この工事の請負契約の経過について、こういう指名競争入札というやり方ではなくて一般競争入札というようものを考えてやるということも必要なんではないかというのを常々思うわけなんですけれども、指名競争入札でなく一般競争入札というようなものについてやるというような考えは全く持っていないのかどうかお聞きしたいと思います。

○総務部長（石田雄一君） 神田議員の再質問につきまして御答弁申し上げます。

一般競争入札に今後市としてどう考えているかということでございますが、指名競争入札は御案内のように一般競争入札あるいは随意契約の中間方式という形でいわれておるわけでございますけれども、指名競争入札によります根拠というのは、地方自治法の施行令に規定されているとおりであります。ただ一般競争入札の場合はどうしても事務的な繁雑さの関係、あるいは経費がどうしても増高するというような特殊事情もございまして、現在各地方公共団体ともほとんどが指名競争入札によっているわけでございます。したがって、今後どうしても一般競争入札によるほうが妥当であるというものにつきましては、十分その時点で検討したいと思っておりますけれども、過去館山市がやってまいりました経緯等を考えますと、指名競争入札というのが最善であるというふうに考えております。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。よって質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採

決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

質 疑 応 答

○議長（五十嵐 昇君） 次いで、議案第三号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算について質疑を願います。

○二〇番（石井武敏君） 第三号議案につきまして何点か御質問申し上げます。

市長さんの御説明によりますと、当初予定しておりましたロードレースが、小規模のリハーサルであったものが、その後各新聞社が後援になるということ、参加者が拡大するということ、この理由によりまして非常に規模の大きい大会になってきた、そのための追加予算であるという説明がありました。

私は、住民参加のこうした行事は非常に意義があり、よい方向だと思えます。特に今回南房総館山若潮マラソン大会という名称ができたようでございますが、おそらく今回のやり方が今後の第二回、第三回、第四回若潮マラソン大会の運営の基本になるように思えますので、今後そういうものが定着していただきたいと思えますし、発展していただきたいと思えますので、そういう観点から御質問申し上げたいと思うわけであります。

まず、その後新聞社の後援が得られたというふうにありますが、どことどこ新聞社が後援になったのかお知らせ願いたいと思

います。

それから、参加者の拡大でございますが、参加者の拡大という説明がありましたけれども、参加者の資格というのはどういう資格で応募したのか。参加者資格を変更したのか。あるいは参加の人数がただふえたのか。御説明願いたいと思います。

また、当初リハーサルであったのが今度はこういったマラソン大会になったわけでございますので、当初のリハーサル大会というのはリハーサルでございますので本大会が想定されると思いますが、リハーサルをやりまして本大会のほうはいつごろにお考えになっておったんでしょうか。御質問いたします。

○教育長（安田豊作君） 後援でございますが、ただいま後援が決定しておりますのは朝日新聞社千葉支局と日刊スポーツ、それにいま千葉テレビが申請中でございます。

それから、参加者としては、こうしたマラソンの運営というよりなものを五百人程度を予想しまして、中学生及び地元の人たちを主体としてリハーサルをしてみようということであつたわけですから、そうしたことで、新聞に出ましたところが――新聞と出たのが週刊誌、ちょっと名前忘れましたが旅行関係の週刊誌に出まして、遠くは福島からもあり、きのう、おとといの集計をとってありますけれども、現在三百人を超しております。そういう状態で五百人では足りないという予想が立ってまいりました。

それから、参加者の範囲でございますが、当初申し上げましたように十キロコースと二十キロコースがありましたが、二十キロコースは高校以上一般も含めて一つのクラス、それから十キロコースを五つのクラスに分けました。十六歳以上三十九歳、

四十代、五十代、六十代以上、女子というように五段階に分けてあります。

それから、当初計画しましたときには、そうしたことで運営の仕方がついたら、一年前にこういうものは宣伝といえますか、ピラ配りを始める。ですから本年の三月やってみて、来年の二月乃至三月に本式の大会の予告をするということになりますと、当然五十七年に本大会を予想した、それが数の上では本大会まで追いつくかどうかちょっとわかりませんが、運営としては本大会と同じような運営を行いたい。実は昨日も勝田マラソンに行ってピラを配りました。十四、十五と青梅マラソンがございしますが、ここに行ってもピラを配ってくる予定でございしますので、できるだけたくさんの方に参加してもらうように運営を考えております。以上でございます。

〇二〇番（石井武敏君） ただいまの御説明で、他県からも大分参加者もふえてきているようでございますし、非常に意義のあるようなマラソン大会になるようでございますし、予算の拡大も理解できます。

予算面でもうちと具体的に知りたい点がございしますので御説明を求めますが、参加者賞の代金が載っていますが、入賞者としては第何位まで入賞になってくるんでしょうか。

それから、消耗品費と食糧費、これをもう少し詳しく説明をお願いしたいと思います。

それから、参加するための費用でございしますが、マラソンに参加するための費用として一人からいただく参加費として幾らを考えておりますか。

〇教育長（安田豊作君） こういう考え方でございます。参加料としましては一人千円を考えております。この千円はゼッケン、参加賞その他で全額本人に返るような積算で考えております。いまのところ千人を予定しております。千人に達するかどうかわかりませんが……。

それから、賞でございしますが、各種目とも一位から六位まで出す。それからそのほかに後援会の日刊スポーツとか朝日新聞社の賞、市長賞、議長賞、その他の特別賞をお願いする予定でおります。

それから、消耗品費でございしますが、花火とかゼッケン、名札紙コップ、スポンジ、紙袋でございします。ゼッケンが四十万でございします。それから完走賞——全員に完走賞、パンフレット、プログラム、写真焼き付け等でございします。

以上でございます。

〇二〇番（石井武敏君） あらあら了解できました。

こうした大会で大変お金のかかるのが賞品のカップとか、旗とか、盾とか、こうしたものが非常にお金がかかると思いますが、どこに入っているのかわからないので御説明いただきたいと思っております。

また、これを機会に館山を中心に定着した行事にしていこうつもりであると思っておりますけれども、確認のためにその点を明らかにしていただきたいと思っております。

〇教育長（安田豊作君） できるだけ標識等金をかけない方法でというところで、役務費に手数料としまして、郵便料のほかに看板製作費等が入っております。

○一九番（石井輝久君） 関連して二点御質問申し上げます。

このレースは、参加者の資格を設けておりますか。資格の有無資格を設けていればどういふ資格かについて御質問いたします。

もう一点、参加の予定者数について御質問します。

○教育長（安田豊作君） 資格としては、マラソンの年齢制限を十六歳以上とおさえております。したがって学校で言うところの高校生以上。中学生は省いておりますが、オープン参加といえますか、そういうことで参加してもらいたいという者があれば許すことも考えられるんじゃないかと。規定としては十六歳以上、上の年齢制限はありません。

参加予定は、予算の上では千人を考えております。

○一九番（石井輝久君） 二〇番議員の御発言の中で定着するようという願いが込められておりましたが、全く考え方としては同じでございます。定着することを期待するものでございます。

そこで、参加者で十六歳以上年齢制限だけ、ほかは一切ない、そのあと十六歳以下でもオープン参加で参加希望があれば許すこともあり得る。ちょっと漠然としているんですが、十六歳以下でも許すことがあり得るということになりますと、ちょっとどういう基準で許すこともあり得る、許さないこともあり得る、そこらがちょっと理解できない。そこらを簡明に御説明いただきたい。

それから、参加の予定者。この予算書で追加しておりますから、一般財源で百二十九万八千円、特定財源でその他……四ページ、五ページにありますからわかります。それから雑入で百万円、先ほどの質疑で参加料が一人頭千円という御説明がありましたが、百万円割る千円ですから一千人の参加料、これは予算書でわかっ

ているんで、私が聞きましたのは、教育委員会当局、主催者当局が見込んでいる参加予定者は千人なのか、九百人なのか、あるいは千二、三百人なのかということをお聞きしているわけでございます。予算上は割り算ではつきりしております。その点もう一遍お尋ねいたしたいと思えます。

○教育長（安田豊作君） オープン参加で認めるか認めないかは、まだ、これから検討してみたいと思いますが、問題は事故に対する補償の問題、そういう問題を考えますので、その心配はないという者については認めていいんじゃないかということでございます。

それから、参加の予定ですが、ほんの胸算用で五百人以上千人以内という考え方で、まあ七百人ぐらいいけばありがたいと私もは考えております。

○一九番（石井輝久君） 質問を終わりますが、これは臨時議案に提案された議案でございますから、これで委員会の付託も、どうでしょう、おそらくなさそうなのであえて御質問申し上げたわけなんですが、ちょっと不確定要素が多過ぎる、この議案は、参加資格がはっきりしていない……はっきりしていることはしている。十六歳以上。だけれども、健康上の問題があるので十六歳未満の場合は参加していいか悪いか……十六歳未満は認めない、十六歳以上ということならきわめて簡単に、率直に理解できるわけです。十六歳未満の参加資格という御説明はちょっと素直には理解できない。

それから、参加予定数ですけれども、少なくとも百万円の一一般財源の計上をしている、その百万円の財源というものは何かとい

りと参加料、参加料百万円ということは、いまの御説明ですと、「まあ七百人程度かな」、「まあ七百人程度」なら七十万、そうすると三十万円の不足がいまの御説明ですと明らかになる。財源不足になる。歳入不足。計上して提案していただきますけれども、財源が明らかに三十万程度不足するであろうという見込みの提案。

となると、先ほどの二〇番議員の御発言にありましたけれどもこの大会がますます発展することを期待するけれども、この提案されたものは非常に不確定要素が多い。参加資格の提案、それからいわゆる財源——七百人を参加予定とするなら七十万しか入ってこない、百万円計上されている。ちょっと不確定要素が多いように感じられます。この点はひとつ二回御答弁いただいたんで、改めまして三回目で、これで終わりますけれども、市長のほうから答弁を求めます。

○市長（半澤良一君） 最初に御説明申し上げましたように、この大会はリハーサル大会としてやりたい、そして運営にも慣れ、また大体の参加者等についても予測をつけて本大会にもっていきたいと考えたわけですが、先ほど御説明申し上げましたように新聞社の後援等も得られまして相当人数がふえるであろうということで急遽第一回ということにしましたわけでございます。そういうことで確かにおっしゃるようには不確定要素が多いわけでございますけれども、この線に沿って千名を目標にして宣伝し、人を集めるように努力をいたしたいと考えております。

○一九番（石井輝久君） 以上で質問を終わります。

だから、ますます発展を期せられることを強く希望いたしました。質問は終わりますが、リハーサル大会だから不確定要素があつて

もやむを得ないと思います。実際には。ただ、しかし少なくとも議会に提案するんですから、むしろそれならば七百人の七十万円を提案して、それでもし千人あれしたらプラス三十万円で、というような方法もあったんではなからうかと思いますが、以上をもって質問を終わります。

○二二番（藤田益治君） 三ページの繰越明許費の防音改築事業に関連してお伺いしたいと存じますが、市長の先ほどの御説明によりますと、この建設する場所が現在の運動場に三期に分けて鉄筋コンクリートで実施するというような御説明でございましたんですが、たまたま現在の運動場が、聞くところによりますと、西側が高うございまして、なお左側の国道沿いが高うございまして、地形的に。そういう面での排水処理の問題に対してどのような御配慮をなさっているかお伺いいたします。

○教育長（安田豊作君） 船形小学校の建築の件だと思っておりますけれども、三期に分けて建てますが、排水ですか、それについてはもう設計が全部終って地元漁協あるいは地元の下解を得ておりますので……。ただ、建築が予算の関係で遅れましたのでいまお願いしているわけでございまして、排水その他については万全を期したい……。

○二二番（藤田益治君） 万全を期すというようにことで了解いたすわけでございますが、いずれにしても現在は非常に運動場のために障害物もなく陽あたりもいいというようになつて、乾き、ひき等は非常に早いわけでございますが、多少雨が降ると運動場を流れていく量が多いように感じられるわけです。たまたま現在の運動場の東側部分に面する所に宇田川という農業配

水路等もあるわけでございまして、宇田川そのものの川底ですか、非常に浅く、いい状態にはなっておらぬというように考えられるわけでございます。したがって、どんなかっこうに校舎ができるか知りませんが、でき上がった時点の校舎の北側等も高台からしぼられてくる水等の問題に対して、将来十二分に配慮していただきたいということを御要望申し上げます。前面の方も非常に国道が高うございまして、国道からしぼられる水がそのまま校庭に入ってくるような状態になっておりますので、十分そのへん今後に遺憾のないような御配慮を御要望申し上げますと終りたいと思います。

○二六番（伊賀多朗君） マラソンにつきまして若干お伺いします。

参加者の健康管理について、自信のある人が大部分だと思いますが、体の悪い人があえて参加することもないと思いますが、事前の健康管理についてどのような対策を考えていらっしゃるか。

それからもう一点。六ページの最後のところに傷害保険料というものが五万円計上されていますけれども、傷害というのは自動車にあたったとか、そういうことなんですか。病気を含めておるんですか。額は千人に対して五万円での範囲まで補償が得られるのか、合わせてお伺いいたします。

○教育長（安田豊作君） 参加については健康な人という条項ももちろん入っていますし、当日も健康には十分気をつけるつもりであります。健康管理の体制もとるつもりであります。

それから、保険料はいわゆる行事保険ということで、死亡の場合二千万——最高二千万ということでございます。それ以下のいろいろな傷害その他については段階が設けられると思います。マ

ラソンにかかる病氣、傷害についての保険が下がる、こういうことでございます。

○二六番（伊賀多朗君） 当日管理するということよりなお話でしたけれども、もう少し具体的にお示しいただきたいと思えます。

○教育長（安田豊作君） 医者及び看護婦、保健の關係の人の救護体制はとるつもりであります。ただ五百人、あるいは千人の人を当日血圧を計るとかというようなことについてはできないと思いますが、そういうものは申告によってチェックしていく、受付でチェックする、こういうような考え方であります。

○二六番（伊賀多朗君） ちょっと経験がないんで教えてもらいたいんですが、何か途中、途中で健康についてチェックするというのが、これは医師会のほうに話はしてあるんですか。

○教育長（安田豊作君） 庁内の方で分担しておりますので、保健課の方で心配していただいて、医師会と連絡をとってやってもらえらるるに、そういう体制がとられるようにお願いしてあります。

そのほかに、当日のチェックはできないと思えますけれども、誓約書を本人からとる、医師の診断書を添えて誓約書をとるようになっております。ですから健康の者の参加……。

○二六番（伊賀多朗君） 誓約書というのは、病氣になってもぐあいが悪くても市には迷惑をかけないということですか。

○教育長（安田豊作君） 誓約書はこうなっております。「大会中の不慮の疾患や生命にかかわる重大な事故などもすべて自分の責任として主催者には迷惑をかけないと共に、大会に備えて医師の診断を受け体調には万全を期し参加することを誓います。」。

〇二六番（伊賀多朗君） 誓約書というのが法的な意味があるのかないのかということもまた問題になってくるかと思いますが、五百人、千人という人数の参加でございますので、運営のほうも大変でしょうが健康管理のほうも大変ですので、医師の配置その他について御努力していただきたいと思っています。

〇二九番（安西益男君） 若潮マラソンについてこまかく説明があったわけですが、一、二点お伺いしたいと思っています。

このコースの内容、どのようになっておりますか。それから、十キロコース、二十キロコースとあるようですが、段階的にやるんですか、時間帯について。一遍に出発してしまいうのか。

いわゆる医療体制については、説明がありましたけれども、いずれにしても相当な高齢者の参加も考えられますので、そういった点も十分検討されているとは思いますが、地元の医師団との関係はどんなふうに進められているのかお伺いしたいと思っています。

〇教育長（安田豊作君） まずコースについて申し上げます。コースは房南中学校を起点とし、房南中学校が終点ということになります。周回ですから一回回ってくるわけです。房南中学校を出て寺田商店前を左に曲がりまして砂山へと向かうわけです。砂山から切り割りを通って見物のほうへ抜けます。見物の信号を左に曲がりまして鳩山荘の前を通過して洲崎灯台のところの道路を西川名へと回りまして、フラワールインをまっすぐ越えまして相浜の信号までまいります。相の浜の信号を左に回って県道ですか、房南中学校まで帰ってくる。これが二十キロコース。正しくは二十三十・七キロでございます。

それから、十キロコースは、同じように寺田商店のところを左に曲がって砂山に向かいますが、砂山まで行かないで鮎山カントリークラブのそばを横切りまして、グランドホテルの前を通過してフラワールインに抜けて相浜の信号を左に曲がって房南中学校。これはびったり十キロでございます。

それから、スタートでございますが、各種目別に適当な時間を置いてスタートする。日程を申し上げますと、受付を八時半から十時まで行います。そして十時開会式で、スタートは二十キロが十一時、それから十キロが十一時十分。そして閉会式が十四時というような日程でございます。

実施については、地元の西郷、神戸、富崎の区長さん及び民宿あるいは観光関係者に集まっていたいて、十分協力していただけるようお願いし、当日小旗を振って応援に出てもらうようお願いして、非常な好感を持っておられるようです。

〇一番（神田守隆君） マラソン大会について二点ほど質問いたしたいと思っています。

新聞社の後援ということで、朝日、日刊スポーツ、あるいは千葉テレビが話が進められているということですが、後援というものの具体的な内容がどういふことなのか。先ほどの説明で伺うと、優勝カップとかというような面で新聞社のほうから出るということとは推測はできますけれども、そのほかに後援というのは具体的にどういうことになるのかどうか。

マラソン大会というところ——いまのお話ですと、二十キロ、十キロ、当初リハーサルというよりな意味もあって、そういう理解をしていたんですけれども、いわゆるフルマラソン四十二・一九五

キロとかという本当のマラソン、こういうマラソンであればそこで出たタイムというのは非常に公式のタイムということでも非常に意義のあることだと思えますけれども、そういうような考え方は全然ないのかどうか。二十三・七キロ、あるいは十キロ、それぞれコースを変えずにやっていくというふうに考えた方がいいのか。当初リハーサルだったものが本大会に変わっちゃったわけで、そういうことも含めて御説明いただきたいと思っています。

それと、船形の小学校の問題ですけれども、交付決定が遅れたために工事が遅れた、こういうお話ですけれども、当初工事完成時期としてはいつを見込んでおったのかお聞きいたしたいと思っています。

○教育長（安田豊作君） 後援の内容ですが、詳しくはまだ詰めてありませんけれども、第一番が宣伝をしてもらえる、それから賞として日刊スポーツ、朝日ともに特別賞を出してもらい、それから応援のための小旗等も用意してもらえようであります。いま私が聞いているのはその程度でございます。

それから、フルマラソンをやる予定はあるかないか。フルマラソンについては考えることは考えてみました。考え方としては、このマラソンは一つの館山の名物にしたいというのがそもそもの狙いといえますか、究極的な狙いでございます。フルマラソンというのはコースを作って、主催はいろいろあって、そのコースを借りて東京の団体がマラソンをするというようにすることもあり得るようなもののようにございます。それからフルマラソンとしては、出発時点で運動場に四百以上の広いトラックがとれてそこから出発ができ、最後にそこを回ってゴールになるというような場所が

なければならぬ。ちょっと考えてみると、できるかどうかかわりませんが、航空隊を借りる以外にはないと思いますが……。その点についてもさらに検討はしてみたいと思います。私どもは地元の人に参加でき、多くの人が参加していただける、二次的には観光にも役立つというようにすることも考えれば、いまの若潮マラソンをそのまま発展させることがいいんではないかと、こういうふうに考えます。

それから、船形小学校の当初の予定……従来ですと、大抵九月初の内定がありますので、本年度中、要するに三月三十一日まで

○一番（神田守隆君） 館山の名物にしたいということで、そういうお考え理解できます。この個所、私も先日回ってみました。菜の花がきれいで、そういう点では走る人も非常に気持ちよく走れるんではなかりかなという感じを持ったわけですけれども、フルマラソンをどうするかということとはなかなかむずかしい問題もあると思いますし、検討してみたいということなので、考え方としてどうかということで検討していただきたいと思っています。

それと、船形小学校の問題ですが、これはあくまでも一期工事、当初九月初の内定が来るんではないかというふうなお見込みであったようにすけれども、大変遅れたわけです。これは二期工事、三期工事ということとの兼ね合いも出てくるというふうに思われます。そういうことで、一月二十六日に当初予定よりも、見込みよりも大変遅れたということはあとの工事にも、二期、三期にも影響を与えるんではないかということで危惧をするんですけれども、どういうことで遅れたのか、二期、三期の工事をみた

ときに影響があるのかお伺いたしたいと思っています。

○教育長（安田豊作君） 遅れた理由は二つございます。一つは、船形小学校の運動場の拡張問題が、いろいろ場所が変わった、できれば建築前に埋め立てを終わりたい、これは完全に終わりました、その問題の一つ。一つは、国の財政的といいますか、景気抑制策のために補助金の交付が遅れた、こういうふうに考えております。しかし、これが二期、三期に影響するのかもしれないことですが、明許繰越でやった場合には七月末までに終わらなければならぬと思います。このころに第二期の交付決定が従来ですとあります。今度はそういう工事を繰り上げるような国の政策のように新聞等にはあります。一期工事が終わるとすぐ内装工事にかかれて、工事それ自体としてはかえって幸せな経過になるんじゃないかといまは考えております。

○一番（林 豊君） 一点だけ御質問いたしたいと思っています。

マラソンの命名でございますが、南房総館山若潮マラソンと命名された経緯についてひとつお聞きいたしたい。なぜ若潮マラソンというふうなお名前をおつけになったのか。将来の館山の名物にしたいというふうなお考えのもとに南房総館山若潮マラソンというふうに命名をなさったというふうに考えるわけでございますが、どういう経緯で命名をなさったか。

○教育長（安田豊作君） 名前というのは一回つけちゃうとなかなか取りかえられないので、慎重を期したつもりでありますが、菜の花が果の花であるし、いまま菜の花が咲いております。菜の花マラソンがいいんじゃないかという話もありましたけれども、たまたま三月一日に白浜で菜の花マラソンがありまして、規模は違

いますが、その方が先に決まったようでございます。コースをずっと回ってみました。そうしますと、時期として花の中を駆けるといふことでの一つの名物という考え方があるとともに、あのコースは花よりも海の景色がどこよりもすぐれている。花と海の景色を両方ミックスしたコースとして館山の名物にしたい、こういうふうな考え方で、じゃ黒潮マラソンという名前もありましたが、千葉県の若潮国体ということで全国的に売り出した名前もありますし、何か黒潮より若潮のほうが若々しい、将来性のあるような気がしますので、私が一人で決めたわけではありませんが、皆さんの意見を聞いた上で、最終的には教育委員会若潮マラソンというところで、南房総という地域と館山という名前をつけて南房総館山若潮マラソン、こういう名前になったわけでございます。

○一番（林 豊君） 苦心された結果、こういうふうになった、お名前になったというところで理解をしておりますけれども、いま日本には別府マラソンであるとか、あるいは青梅マラソンであるとか、いろんなところにマラソンがあるようでございますが、将来も観光の一助にもなるようなことで、一つの館山の名物にしようというふうな考えでやりになっているというところでございまして、私もこういうものが定着をして市民体育の向上にもなるし、あるいはまた観光の一助にもなるというところで非常にいいことだろうと思うんですが、名前が少し冗長ではないかという感じがしますし、親しみづらいんではないかと考えられますのでちょっと質問申し上げますが、銚子のほうでやっているマラソンが若潮ではなかったかとも考えられるんですが、私の記憶が違っていれば——お尋ねをいたしたいと思いますが、銚子で先般やったの

は若潮ではなかったんですか。

○教育長（安田豊作君） ちょっと、私それ聞いておりません。いま調べます。

○議長（五十嵐 昇君） いま調査中でございますので、他に御質疑ございませんか。

暫時休憩いたします。

午前十一時二十五分 休 憩

午前十一時三十四分 再 開

○議長（五十嵐 昇君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を願います。

○教育長（安田豊作君） 御質問の銚子の方面でマラソン、銚子市に電話で聞いてみましたら、市民マラソンという名前で二月八日にやっております。それから二月二十七日に陸連公認のフルマラソンを旭市で行いますが、近隣で若潮マラソンという名称で実施しているものはないとのことでした。さらに調査してみたいと思います。

○一番（林 豊君） 委員会の御苦心のことがよくわかりますけれども、将来ひとつ定着をして観光の一助にしたいというふうなことでございますので、もう少し親しみやすいというふうな短かくて覚えやすい、しかも名物であるというふうなイメージをあらわすような命名がほしかったなというふうに考えます。しかし、若潮でも結構だと思いますが、ひとつこの大会がますます発展をいたしまして、スポーツの振興にもつながり、観光の一助となることを期待いたしまして質問を終わります。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑

なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決すること御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案のとおり可決されました。

三芳水道企業団議会議員補欠選挙

○議長（五十嵐 昇君） 日程第四、これより三芳水道企業団議会議員補欠選挙を行います。

この補欠選挙は、綱島憲治君が去る一月二十三日に死去されましたので、組合規約第七条第二項の規定により行われるものであります。

お諮りいたします。選挙の方法は地方自治法第百十八条第二項の規定により指名推選によりたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって選挙の方法は指名推選によることに決しました。

お諮りいたします。指名の方法は議長において指名することといたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって議長において指名することに決しました。

三芳水道企業団議会議員に林 豊君を指名いたします。

お諮りいたします。ただいま議長において指名いたしました林 豊君を三芳水道企業団議会議員の当選人と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(五十嵐 昇君) 御異議なしと認めます。よって指名のとおり林 豊君が当選されました。

ただいま当選されました林 豊君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

閉 会 午前十一時三十九分閉会

○議長(五十嵐 昇君) 以上で本臨時会に付議されました案件は議了されました。よってこれにて第一回市議会臨時会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、追悼の言葉

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、議案第一号乃至議案第三号

一、三芳水道企業団議会議員補欠選挙

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 五十嵐 昇

館山市議会議員 神 田 守 隆

館山市議会議員 黒 川 平 治

